

## さぶりめんと

2012-Dec.

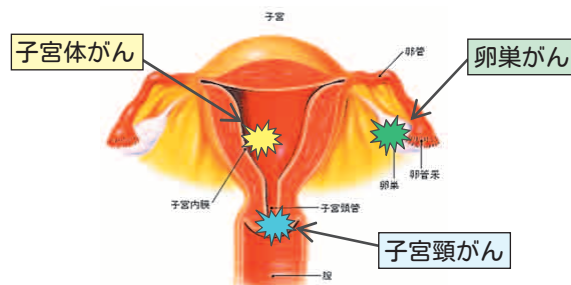
No. 23

## 婦人科がん ～産婦人科にこう～

産婦人科 伊藤 公彦

産婦人科で扱う婦人科がんの主なものに、子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんの3つがあります。国立がんセンターの報告では年間の罹患者数は、いずれのがんも8,000～9,000人ですが、死亡者数は子宮頸がんが2,700人、子宮体がんが1,900人、卵巣がんが4,700人と違いがみられます。子宮体がんの多くが早期で発見されるのに対し、卵巣がんの半数以上が進行した状態で発見されるためです。

## 子宮頸がん・体がん・卵巣がんの場所



**子宮頸がん** 発症する年齢のピークは20代～40代と、若い人で急増しています。子宮頸がんの原因のほとんどは、ヒトパピローマウィルス (HPV) であることが分かっています。このウィルスは皮膚の表面のどこにでもいるのですが、性的接触で子宮頸部に細かな傷が付くことにより簡単に感染します(お風呂やプールや温泉では感染しません)。一旦感染しても9割以上的人是に自然に排除されますが、排除されずに持続感染した人から子宮頸がんは発症し、その割合はHPV持続感染者の1,000人に1～3人とされています。すなわち、**子宮頸がんを予防するにはできるだけ性交デビュー前の学童にHPVワクチンを接種することです**。これにより頸がんの60～70%は予防できますが、ワクチン接種だけではすべての子宮頸がんは予防できません。**子宮頸がんの早期発見にはがん検診が有効である**ことが証明されていますので、10代～30代の若い女性はワクチン接種を、20代以上の女性は子宮がん検診を必ず受けてください。

**子宮体がん** 肥満、糖尿病、高血圧などの生活習慣病がリスク因子とされており、年齢のピークは50代～60代で、初期の症状として通常、不正性器出血があります。がん検診は有効ではありませんので、**特に更年期以降の不正性器出血を認めたら、そのうち止まるだろうと放っておかず、すぐに産婦人科を受診してください。**

**卵巣がん** 初期の自覚症状がないまま、腹痛や腹部膨満感がでてきて受診したら3、4期と進行していたというケースがほとんどです。年齢のピークは50代から横ばいで80代からまた上昇します。がん検診も有効な方法が見つかりません。最近、**お腹が出てきた気がする、なんかおかしいと感じたら、産婦人科を受診する**のもよいと思います。

|         | 子宮頸がん               | 子宮体がん                  | 卵巣がん               |
|---------|---------------------|------------------------|--------------------|
| 初期の自覚症状 | なし                  | 不正性器出血                 | なし                 |
| 年齢のピーク  | 20代～40代             | 50代～60代                | 50代～80代            |
| ポイント    | HPVワクチン接種と子宮がん検診が重要 | 肥満、糖尿病、高血圧の生活習慣病がリスク因子 | 腹痛、腹部膨満感があれば迷わず受診を |

いずれのがんも、早期に発見されれば手術で治ります。ある程度進行していた場合は、患者さんの状態に応じて、手術、放射線、抗がん剤を適切に組み合わせた治療を行います。恥ずかしい、面倒くさいと思わずに、産婦人科を受診してくださいね。

理念  
基本方針

## ●● 良質な医療を働く人々に、地域の人々に、そして世界の人々のために ●●

- ・私たちは、働く人々の健康確保のための医療活動、即ち「勤労者医療」の中核的役割を担ってこれを推進します。
- ・私たちは、急性期医療機関として良質で安全・高度な医療の提供を行うとともに、地域の諸機関と連携して地域医療の充実を図り「地域に生き、社会に応える病院」としての発展を目指します。
- ・私たちは、患者様の権利を尊重し、医療の質の向上ならびに患者サービスの充実に励み、「信頼され、親しまれる病院」作りを心がけます。
- ・私たちは、「開かれた皆様の病院」として、ボランティアや有志の方々の病院運営への参加・協力を歓迎します。
- ・私たちは、病院使命の効果的な実現のために「働き甲斐のある職場」作りを行い、運営の効率化と経営の合理化を推進します。

イメージキャラクター  
がんろっこ

脳卒中とは、脳の血管が詰まったり破れたりして、脳がダメージを受ける病気です。脳卒中は、日本人の死亡原因の第4位(※1)で、また寝たきりの原因の第1位(※2)を占めています。

※1 平成23年(2011)人口動態統計(確定数)の概況より ※2 平成22年 厚生労働省 国民生活基礎調査の概況より



脳卒中には、脳の血管がつまる「**脳梗塞**」、脳内の血管が破れる「**脳出血**」、脳表面の血管にできた動脈瘤が破裂する「**くも膜下出血**」の3つのタイプがあります。この中で、最近は「脳梗塞」による入院患者さんが増え、脳卒中のうち約7割を占めるようになっていきます。

さて、皆さんの中には脳梗塞について、急に意識が遠くなって倒れる、という印象を持っておられる方も多いのではないのでしょうか？確かにそれは間違いではありませんが、脳梗塞の症状がいつも急激に現れるとは限りません。**脳梗塞が起きる前の症状**、つまり“**前触れ**”が起きることもあります。**この段階で治療を受ければ、多くの場合重大な症状に至らずに済みます**ので、**脳梗塞の前触れの症状を知っておくことは、大切なことです**。



## 脳梗塞の前触れの症状

- 片腕や片足の力が“だらん”とぬける(特に体の右半分または左半分)
- からだの片側がしびれる、口元がしびれる
- ろれつが回らない、言葉がうまくでてこない
- 急に歩きづらくなり、片側に倒れそうになる
- 目の半分为“すーっ”と見えなくなる、ものが2重にみえる



**脳梗塞の前兆・前触れの症状**のことを、「一過性脳虚血発作(英語での頭文字をとってTIAとも呼ばれます)」と言います。TIAは一時的に血液の固まり(血栓)が脳の血管に詰まることで起こります。症状は24時間以内、多くは短時間(通常は30分以内)に自然に消えてしまいます。これは、詰まっていた血栓が溶けることで血流が回復するからです。

しかし、TIAは軽い症状と見過ごしてはいけない危険な発作です。TIAを起こした人のうち3カ月以内に6人に1人が脳梗塞を発症し、その半数が48時間以内であるとのデータもあります。

TIAは治療しなくても短時間で自然に症状が消失してしまうため、ともすれば本人や家族に軽視または無視されがちですが、**早期に脳梗塞を起こす可能性の高い救急疾患**なのです。

TIAを起こした後は、脳梗塞を起こさないように生活習慣を見直して危険因子をしっかりとコントロールしましょう。

- 血圧やコレステロール・血糖値をしっかりとコントロールすること
- ただちに禁煙すること
- 食事と運動で体重をコントロールすること



TIAは、いわば「がけっぷち警報」ですから、症状が出たら専門病院を受診し、すぐに検査を受けて対処することが大切です。



独立行政法人 労働者健康福祉機構 **関西ろうさい病院**  
 尼崎市稲葉荘3-1-69 TEL 06-6416-1221(代)

HP <http://www.kanrou.net/>  
 携帯版HP <http://kanrou-mobile.jp/>  
 ブログ <http://kanrou.blog106.fc2.com/>  
 発行人 林 紀夫 編集人 堤 圭介

